

造影 MRI 検査についてよくある質問

●なぜ造影剤を使用するのですか？

* 造影剤によってあなたの病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。造影剤を使用しなくても MRI 検査は行えますが、正しい検査結果が得られない場合があります。

●造影剤をどれくらい使うのですか？どのように注射するのですか？

* 検査目的や患者様の体重にあわせて使用量は変えています。通常 5~10 cc です。造影剤は静脈に注射します。正確かつ高速に注入する必要がある場合には機器を使って注入します。

●注射された造影剤はどうなるのでしょうか？

* 注射された造影剤は 24 時間以内に半分が腎臓から尿中へ、半分が肝から胆管を介して糞便中に排泄されます。透析中の患者さんでは、糞便から排泄されたり透析によって除去されます。

●造影剤が注射中に漏れたりしないのでしょうか？

* 血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合には、注射した部位が腫れて痛みを伴うこともありますが、通常、時間とともに吸収されて症状もなくなりますので心配ありません。漏れた量が非常に多い場合には、処置が必要となることもあります。まれです。

●検査前に食事の制限はあるのでしょうか？

* 検査予定時刻の 4 時間前から食事をとらないでください。少量の水やお茶などの水分はとっていただいてもかまいません。

●常用薬は飲んでもよいのでしょうか？

* 常用薬はふだん通り飲んでください。

●注射を受けた後、食事や入浴などに制限はあるのでしょうか？

* 注射の後、特に制限はありません。普段通りの生活をしていただいてもかまいません。

* 尿への造影剤の排泄を促進するため、水分を多めにとってください。

●副作用はどのような場合に出やすくなるのでしょうか？

* アレルギー体質の場合には副作用が出やすくなります。特に気管支喘息の患者さんでは、重篤な副作用が出やすくなります。

* 重い腎機能障害のある場合、全身性の線維症が出る危険性があります。

* また、過去に造影剤の使用で副作用が出た患者さんでも副作用の危険性が高くなります。

* 気管支喘息の既往、造影剤の副作用の既往がある場合、重い腎機能障害のある場合は、原則として造影剤の注射は行わないことになっていますが、臨床的に必要な場合は主治医の判断で造影剤の注射を行うことがあります。逆に、同意をされている場合であっても、検査を担当する放射線科医師の判断で造影剤を使わない場合もありますのでご了承ください。

●副作用が出た場合の対応はどうなっていますか？

* 万一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。注射中、看護師、放射線技師が常に観察しています。なにか異常がみられた場合には検査を中止し、薬剤の投与など最善の対処を行います。もしなにか異常を感じましたら、ためらわずすぐにお話ください。

●外来の患者さんで帰宅途中、後に副作用の症状が出た場合にはどうすればいいのですか？

* 診療時間内では かかりつけの病院に電話でお知らせ願います。

* 夜間、休日では 明石市立市民病院 078-912-2323 から当直医師に電話でお知らせ願います。

肝細胞性造影剤を用いた造影 MRI 検査説明書**1. 造影検査の必要性**

造影剤は画像検査で診断を容易にするために使用される検査用の薬剤です。今回の MRI 検査では、肝細胞性造影剤というガドリニウムという物質を含む薬剤が使用されます。造影剤は血管内に注射され、全身の血管や臓器に分布します。造影剤の使用によって病気の性質や血管や臓器の様子が鮮明に描出されるようになり、あなたの病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。造影剤を使用しなくても MRI 検査は行えますが、正しい検査結果を得られない場合があります。

2. 造影剤投与による合併症

- * 注射に際して、造影剤の漏れ、末梢神経障害による痛みが起こることがあります。
- * 軽い副作用として、紅潮、吐き気、頭痛、かゆみ、発疹、味覚異常などがみられます。これらの軽い副作用の起こる頻度は、約 100 人につき 1 人（約 1%）です。
- * 肝細胞性造影剤では、これまでに呼吸困難、意識障害、血圧低下、末梢神経障害、ショック、全身性の線維症、死亡などの重篤な副作用の報告はなされていません。しかし、今後、出現する可能性が無いとは言えません。仮に、これらの副作用が出た場合には、治療のため入院や手術が必要となる場合があると考えられます。また後遺症が残る可能性があります。
- * 副作用は注射後 30 分以内に現れる場合がほとんどですが、検査終了後 1 時間から数日の間に遅発性に生じることもあります。
- * なお、造影剤の注射を受けた時には 1,2 分間ほど体が熱く感じる（注射時の熱感）がありますが、血管に対する直接の刺激による正常な反応で一時的なものであり、心配ありません。
- * アレルギー歴、特に気管支喘息、重い腎機能障害、造影剤の副作用歴がある場合には副作用の危険性が高くなります。

3. 合併症発生時の対処

万が一合併症が発生した場合には、最善の処置で対応します。その際は通常の保険診療となります。

4. 同意の撤回

いったん同意書を提出した後でも、いつでも同意を撤回することができます。検査に同意しない場合でも、何ら不利益な取り扱いはありません。

説明年月日 年 月 日

説明医 _____

肝細胞性造影剤を用いた造影 MRI 検査のための問診票

検査を安全に行うために以下の質問のあてはまる方の□内に レ 印を入れてお答えください。

- | | あり | なし |
|--|----|----|
| 1. 気管支喘息（ぜんそく）の発作を起こしたことがありますか？（5 年以内） | □ | □ |
| 2. アレルギーはありますか？・・・・・・・・・・・・・・・・ | □ | □ |
| 2.で「あり」と答えた方へ、 どのようなアレルギーですか？ | | |
| □ アレルギー性鼻炎 □ 薬・食物アレルギー（ ） □ その他（ ） | | |
| 3. 腎臓の働きが悪い（腎不全など）といわれたことはありますか？ ・ ・ ・ | □ | □ |
| 4. 過去に造影剤を注射して検査を受けたことがありますか？ ・ ・ ・ ・ ・ | □ | □ |
| 4.で「あり」と答えた方へ、 | | |
| 5. 検査中及び検査後に副作用の症状がありましたか？・・・・・・・・・・ | □ | □ |
| 副作用の症状を○で囲んでください（嘔吐・発疹・頭痛・ショック・腎機能障害・呼吸困難・意識障害） | | |
| 副作用の症状が出た検査は何ですか？ □ CT □ MRI □ その他（ ） | | |

肝細胞性造影剤を用いた造影 MRI 検査同意書

地方独立行政法人 明石市立市民病院長 様

このたび、肝細胞性造影剤を用いた造影 MRI 検査を受けることについて、その必要性、内容、危険性、合併症、後遺症などについて詳細な説明を担当医師から受け、了解しましたので実施していただくことに同意いたします。なお、この検査を施行している間に、緊急にあるいは医学上の立場から検査の変更、または、緊急処置を行う必要が生じた場合には、医師が必要と求める処置を行うことに同意いたします。

検査予定日 年 月 日

説明年月日 年 月 日 説明医 _____

同意年月日 : 年 月 日

同意者（本人） : _____

代諾者 氏名 : _____ 患者との続柄（ ）

* 患者様に判断能力がない場合にのみ、代諾者が自筆署名してください。

説明時の同席者氏名 : _____ 患者との続柄（ ）

: _____ 患者との続柄（ ）